



みなみの風

坂下南小学校
学校だより
NO. 25
R6. 6. 18
(文責:校長 菅家 篤)

ドリーム & チャレンジ! ~あいさつ・はっぴょう・なかまとじぶん~

水泳シーズン到来

昨日は絶好の水泳日和となり、6年生がプールで初泳ぎをしました。体育館の改修工事（床の張り替え）が昨日から始まり、体育館での準備運動ができなくなるなど不便な状況が続きますが、子ども達は久しぶりの水の感触を味わいながら、元気に水しぶきを上げていました。



図書ボランティア、お世話になっています



図書ボランティアの方々に、図書室の本の整備や手入れ等を行っていただいております。

今後は、本の読み聞かせなども行っていただく予定です。教員だけでは手が回らないところをお手伝いいただき、本当にありがたく思っております。

1年間、大変お世話になります。

家庭学習について考える《その2》

親子で話し合って決めることに意義がある

小学校低学年では、家庭学習を20分程度すれば十分でしょう。それを帰宅後にするか、夕食後にするかは、その家庭の事情によって異なります。子どもと話し合って決めるといいですね。その時にお薦めしたいのが教科書の音読です。親は家事をしながらでもよいので、子どもの音読を聞いて、「上手だね」とか、「あなたがしっかり読むのでお母さんも覚えたわ」というような会話を交わします。家庭学習に楽しさをもたらすことが、子どものやる気を高める上で効果的ですね。（暗唱チャレンジの課題の音読もいいですね。）

「土曜日は家庭学習はなし」というのもいいでしょう。子どもにとって、生活に変化があるのは楽しいことです。どうしても見たいテレビ番組があるために、学習時間を変更するとか、日曜日は終日、家族で遊びに出かけるので、その日の家庭学習はないけれど、その分を土曜日にしておくとか、「筋を通し」ながら適切な変化があるのは望ましいことです。そのことを親子で話し合って決める、という点に大きな意義があります。家庭学習をめぐる、親子の対話の機会ができていいな、と積極的に受け止めるようにできたらいいですね。

子どもは心をつかわない親をいやがる



家庭学習の時間も、高学年、中学生と進むにつれて長くなるのは当然です。高学年や中学生になると、学習時間も長くなる反面、趣味などのやりたいことやスマホなどメディアとの接触も増えてきます。これらの折り合いを上手につけること自体が人生における広い意味での「学習」ではないかと思います。家庭学習の取組で育てたい「自己マネジメント力」でもありますね。小学校1年からの家庭学習の習慣づけが、「自己マネジメント力」の基礎となります。

現在は、学習塾に行かせることも盛んになりました。しかし、ここで考えなくてはならないのは、学習塾に、子どもの教育を「まる投げ」にしてしまっ、「親は我関せず」というような姿勢になることです。お金を出して、他人に任せることで万事解決と思ってしまうことです。学習塾がいけないと言っているではありません。親子で話し合い、お互いの理解のもとにやっているのならよいのです。子どもが一番いやがるのは、親がお金だけ使って、心をつかわないことだということを心に留めておきたいものです。